

2020年度 札幌市立大学大学院 連携プロジェクト演習 公開成果発表会プログラム

日時：2020年11月7日（土）14:00～15:10

方法：「2020連携プロジェクト演習・横断型連携特別演習」Teams

1 開会 14:00 デザイン研究科長 石井 雅博

2 グループの成果発表

プレゼンテーション20分+質疑応答10分=30分間

発表番号	予定時刻	テーマ／発表概要		グループ構成員
1	14:05 ～ 14:35	【テーマ】	浴室での石けんの選択行為と選択に付随した視覚・嗅覚刺激が感情に与える影響	看護学研究科博士前期課程1年 石黒 未恵、南山斗志世 看護学研究科博士後期課程1年 陳 姿螢
		【発表概要】	本プロジェクトは日常生活における選択行為と選択に付随した知覚刺激が感情に与える影響を明らかにすることを目的とする。入院患者は、他者との共同生活を送りながら医療を受ける。つまり、日常生活において患者自身が選択する機会は減少する。選択に関する先行研究では、自発的な選択はストレスと不安を軽減させることや、適切な選択肢が与えられた場合に満足感を得られることが報告されている。しかし、日常生活における選択行為や選択後の知覚に関する報告は少ない。以上を踏まえ、日常生活を想定した入浴時の石けんの選択行為と選択した石けんに付随する知覚刺激が感情に与える影響に関する調査を実施したため、その結果について発表する。	デザイン研究科博士前期課程1年 川口 伽椰
				指導教員 藤木淳教授、檜山明子講師
2	14:35 ～ 15:05	【テーマ】	中国人留学生が病院の外来を受診する際に生じる課題の整理と対策の提案 —カスタマージャーニーマップを用いた検討—	看護学研究科博士前期課程1年 岩崎 美樹、石原 文緒
		【発表概要】	わが国における在留外国人数は増加しており、医療機関における外国人患者の受け入れ実績も増加している。医療機関における外国人患者の受け入れ態勢は整備されておらず、外国人患者は医療機関受診でコミュニケーションギャップを感じている。臨床現場でも多くの看護師は、試行錯誤で外国人患者を受け入れている。そこで、在留外国人、特に中国からの来日者に焦点を絞り、彼らが医療機関を受診する際に生じる課題を整理し、その対策を提案することを本プロジェクトの目的とした。本プロジェクトの成果は、外国人が安心して日本の医療機関を受診するための体制整備と看護師等の医療従事者における対象理解に資する基礎資料となることが期待される。	デザイン研究科博士前期課程1年 尹 潤恬、王 彦丹
				指導教員 森朋子准教授、本田光准教授

3 講評 15:05-15:10 看護学研究科長 菊地 ひろみ

4 閉会 15:10